

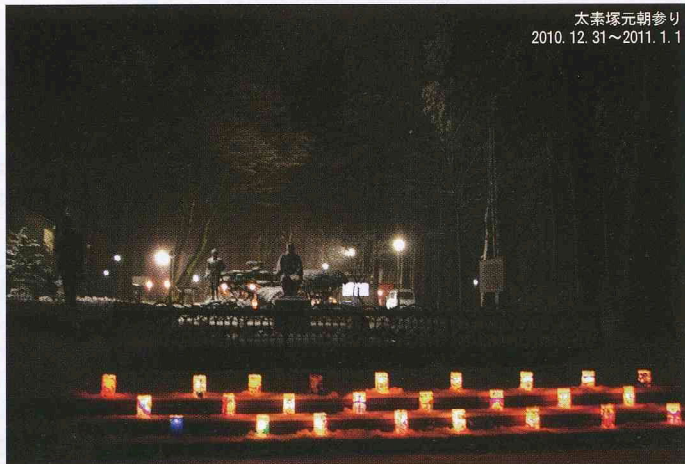
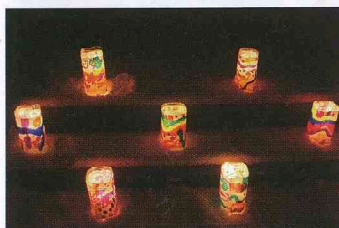


十和田市立 新渡戸記念館だより

Nitobe Memorial Museum Newsletter

第62号

強い風と雪にみまわれた大晦日



太素塚元朝参り
2010.12.31~2011.1.1



東小学校4年生の行灯



行灯を親子で見に来てくれました



お囃子奉納の「わ組」の皆さん



年越しの頃のにぎわい

今年の新渡戸塾のテーマは「未来遺産」—心のともし火を大切に—

2010年12月31日(金)22:00~2011年1月1日(土)1:30「稻生川上水152年記念・元朝参り」を開催いたしました。今回は例年に無ような暴風雪に見舞われ、予定より行灯とキャンドルの数を減らして実施しましたが、昨年12月に行った新渡戸塾モデルスクール事業「行灯ワークショップ」(詳細2面)で子供たちが制作した「太素塚元朝参り行灯」と月星キャンドルあわせて70個で境内をライトアップしました。甘酒、お神酒の無料サービスを実施し、真夜中には稲生町の十和田市中央町内会・わ組有志による神輿担ぎ唄と十和田囃子の奉納でにぎわいました。子供たちの行灯を元朝参りに飾る事業は、市民ボランティアの協力で昨年からのスタートし、今年で2年目、わ組有志の元朝参りお囃子奉納は2009年の元旦から数えて3年目となります。稲生川上水により発展した中心街は創建からおよそ150年と他地域に比べれば決して「歴史あるまち」とは言えませんが、何千年の歴史も一年一年の積み重ねが生み出すものだという思いで、こうした活動が続けられています。まちの歴史を大切に、自分たちの手で未来に受け継ごうという人々の心の絆が生み出したともし火が、悪天候の中でも温かく、新年のまちを照らしていました。昨年6月開講した新渡戸塾もそうした多くの方の力で実現し、開講基調講演を行った童門冬二先生には、企画のヒントになるようなメッセージをいただき、新渡戸塾を見守っていただいています。

今年の新渡戸塾のテーマは「未来遺産」です。歴史と伝統のもとで培われた地域の文化・自然遺産を100年後の世代に伝えていく活動が、現在(株)ユネスコ協会連盟の呼びかけにより、全国各地で行われていますが、十和田市民が未来の子供たちに伝えるべきものは何か、どうしたら伝えていけるのか、地域の連携による新渡戸塾の活動を通して一緒に考えていきたいと思ひます。

童門先生のことば ② 『武士道』とは何か

童門冬二先生の基調講演から、私たちのまちづくりに大切な知恵を数回にわけてキーワードでご紹介します

童門先生は、新渡戸稲造の「武士道」について「戦後誤解されたまま伝えられてきたのではないかと語りました。「佐賀鍋島藩に伝わる武士道書の書き出し「武士道とは死ぬことと見つけたり」という言葉が戦時中は軍人の依って立つところとされ、特攻など戦死を恐れない考えになったが、稲造が書いた当時の心は全く違う。死ぬことではなく「生きること」、どう生きればいいのかを言っている。武士道の武士になぞられて「民を守るよう天から命ぜられた役人」護民官のとるべき態度で生きること、親のような気持ちを民に持つこと、孔子の「恕」の精神＝孟子の「忍びざるの心」を常を持って生きろと言っている。」と語られました。恕とは、例えば川辺を車椅子の人や目の見えぬ人が通っていて、今にも落ちかかっているのを見たら、自然と駆け寄り寄りには居れない気持ちを言います。その恕の精神を常を持ち、実現するために必要なこととして ①社会正義を愛すること ②行動者であること ③行動するために学ぶこと ④行動の責任をとり、口だけでごまかす人間にならないこと ⑤忍ぶための忍耐を持つこと。この5つを童門先生はあげられました。そして「総じて言うなら武士道とは、最後まで「公の精神」を重んじ、私欲、私利をはからない、公益、公利をはかることである」と述べられています。「武士道の根源にある護民官意識を貴くためには絶え間なき学習＝生涯学習が大切である。」童門先生の言葉は、私たちが新渡戸塾で学びあう大きな意味を教えてください。

※恕(じょ)＝おもいやり。同情心。ゆるすこと。

休館のおしらせ

平成23年2月2日(水)~2月27日(日)新渡戸記念館がより良い活動を皆様に還元するため所蔵目録の整理を休館の上おこないますのでご了承下さい。

★休館中も部分開館し、1月末まで会期延長した『武士道展』は管理上支障のない範囲で見学可能です。窓口にご相談下さい★

EVENT

平成22年度 新渡戸塾こども講座



子供たちを激励する塾長の小山田久市長

最終講座「お茶の心は武士道の心ー茶道体験&武士道ワークショップー」と閉講式

■日時 2010年12月18日(土) 9:00~12:00 ■場所：十和田市民文化センター
 [十和田市立新渡戸記念館・十和田市教育委員会 共催]

新渡戸塾こども講座・寺子屋稲生塾の最終回「プログラムその5 お茶の心は武士道の心」ならびに閉講式を十和田市民文化センターの茶室と邦舞邦楽練習室で開催し、塾生と父兄、あわせて40名が参加しました。最初に『こども武士道』（講談社出版）の著者・高橋和の助氏が「こども武士道ノート」を使って、生活の中で武士道をどう活かすか子ども達に考えてもらうワークショップを行い、茶道体験では、裏千家教授・稲本宗美氏がお茶の心得についてお話しをした後、茶室でお茶とお菓子を茶道の作法でいただきました。

閉講式では小山田市長、新渡戸館長、米田教育長から修了証と記念品の「稲生塾木札」などが授与され、今後も稲生塾で学んだことを忘れずに生活して欲しいとの激励の言葉をいただきました。今年度の活動はこれで終了となりましたが、講座の最後には子供たちから「またぜひ参加したい!」との声が聞かれました。次年度はさらに内容を充実させ開催いたしますのでご期待下さい。



こども武士道の高橋和の助氏



茶道講師・稲本宗美氏



みんなで楽しくお茶を飲みました



修了証と記念品の授与

稲生塾木札によせた「新渡戸塾」塾長 新渡戸常憲 館長代理のメッセージ

太素塚の木に願いを込めて…

この木札には、約160年前、この地を開拓した新渡戸傳と地域の先人たちが太素塚に植えたサラピ（ヒノキの亜種）の間伐材を使っています。先人たちはまちの成長と発展を願い、見守るため、この木を植えました。その先人のぬくもりを受け継ぎ、寺子屋稲生塾は塾生の皆さんの成長を願っています。



稲生塾木札



武士道の魂ボール

全部で8種類！
今年も参加して
あつめてね！

ボールにも武士道の8つの言葉「仁・義・礼・勇・忠・孝・誠・名誉」をつけ、塾生たちは活動の中で特に心に残った言葉のボールをもらいました。

★プログラム参加の記念として、子ども達に「武士道の魂ボール」とともに、今年度は「稲生塾木札」を贈呈しました。木札については、太素顕彰会会員である（福）福祉の里・理事長山本孝司氏と館長代理が地域に対する貢献や在り方などについて話し合うなかで生まれたものです。ものづくりを通して福祉活動を行う福祉の里・工房「プリコロール」に制作協力いただき、僅かに残っていた太素塚の間伐材のサラピを加工して、館長が揮毫した文字を一つ一つ手作業で刻んでもらいました。

寺子屋稲生塾『とわだ時空調査隊壁新聞展』&『活動の成果展』

寺子屋稲生塾・プログラムその4「とわだ時空調査隊ーまちの宝をさがそう!ー」[2010年8月6日(金)・7日(土)]で塾生がまちを探検してまとめた壁新聞を10月1日(金)から青森銀行「和田支店ロビー」に展示し好評につき1ヶ月延長して11月30日(火)まで展示しました。さらに、12月25日(土)~2011年1月29日(土)十和田市民文化センター市民ギャラリーに、稲生塾の活動で子どもたちが制作した作品や『武士道展』出品作品、活動の写真などをまとめて展示し、市民の方に稲生塾の成果を見ていただきました。



活動の成果展の様子

壁新聞を展示いただいた 青森銀行十和田支店 佐々木史郎 副支店長からのメッセージ

皆さんの手作りの新聞を読んで、私は今まで知らなかったこの街の歴史や各商店の宝物を知ることができました。逆に皆さんも新聞の取材を通じて、学んだことがたくさんあったのではないのでしょうか。いままでも何気なく過ぎて来たこの街にも、数多くの歴史・思い出・宝物がいっぱい詰まっていることに気付いたことと思います。問題意識を持ち積極的に取材することでよい記事が出来たのです。ここ十和田市は、先人の強い精神力と多大な努力により拓かれた街であり、その痕跡は至るところに残っています。先人が持った三つの心「ふるさとを愛する心」「武士道の心」「開拓の心」に思いを馳せて、今回の新聞を作った時と同じようにこの街を観察して見れば、これからも一層「まちの宝」に気がつくことと思います。頑張ってください。

平成22年度 新渡戸塾モデルスクール事業

10月26日(火) 十和田市立三本木中学校『先人の志についての出前講座』

「拓魂」を設立精神に掲げる三本木中学校において、開拓精神や新渡戸稲造の「武士道精神」に対する理解を深める出前講座を、同中学校2学年対象「十和田市の発展の歴史講話会」として行いました。『見直してみよう! 三本木原開拓のこと、先人たちのことー新渡戸傳・十次郎親子、そして新渡戸稲造の「志」とは?ー』と題し学芸員が話しました。



脱穀体験講師の戸来和城氏



ねぶた絵の具で行灯に彩色

11月24日(水) 十和田市立南小学校『脱穀体験&一粒の米ワークショップ』

十和田市立南小学校4年生対象に、農業用水・稲生川とお米の関係を考える「脱穀体験&一粒の米ワークショップ」(講師:小笠原正氏、戸来和城氏、戸来陽子氏)を実施しました。南小学校では9月には当館からの2回の出前講座[9月3日(金)、17日(金)]と、稲生川と当館の実地見学[9月24日(金)]で開拓への理解を深めています。

行灯ワークショップ 講師の吉田村長



12月9日(木) 十和田市立東小学校『行灯ワークショップ』

十和田市立東小学校で4年生を対象に、およそ150年まえの稲生川上水成功後、新町・稲生町で行われた“大行灯祭り”にちなむ「行灯ワークショップ」(講師:工作屋台村 村長 吉田紀美男氏)を工作屋台村と共催しました。このプログラムは、当時の人が行灯に込めた思いについて学ぶとともに、開拓への感謝の気持ちを込めて、自分たちの手で行灯を作り、新渡戸傳の墓所・太素塚の元朝参りに飾るものです。東小学校では9月に当館と稲生川を見学しており、今回のワークショップでさらに理解を深めました。

平成22年度 新渡戸塾

協力：博物館によるまちづくり団体 Kyosokyodo

第二講座 武士道に学ぶ日本の心

★講演会「新渡戸稲造の武士道」

講師：十和田市立新渡戸記念館 館長 新渡戸 明

■日時：10月16日(土)14:00~15:00 ■場所：十和田市立新渡戸記念館

講師を務めた当館の新渡戸館長は新渡戸稲造の「武士道」が形成されていく背景を、家族との関りを中心に話し、聴講された方々は開催中の「武士道展」をあわせて見学され、理解を深められていました。また、当日は新渡戸稲造の命日のまさに亡くなった時間に近く、館長はそのエピソードも絡めて参加者たちに稲造の思いを伝えていました。



お話しする新渡戸館長



聴講する方々

★「絆」ギャラリートーク・『武士道』を考える 全2回 14:00~15:00 場所：十和田市立新渡戸記念館

「日本人の心」を見つめなおす書籍として、人の生き方の指針として、日本国内に留まらず世界からも注目をあつめる「武士道」から十和田市民はどのような知恵を読み取り、日々の生活に活かすことができるのか、各分野の市民エキスパート講師とともに考えました。

1 10月30日(土) 第1回 十和田市教育行政の視点から「武士道」を考える

講師：十和田市教育長 米田省三氏

米田教育長は学校教育における、新渡戸稲造の「人格教育」や「武士道」による徳育の再評価などについて、ご自身が教育長公募の時に提出したレポートや、永年教育に携わられた経験から話されました。新渡戸稲造が提唱した「教養教育」の重要性や人格の陶冶は十和田市の学校教育指針に合致するものであり、稲造のように国際貢献に資する人材を育てるためには「武士道」の徳目を教育の現場で見直すべきと考え、志を高く持った子供たちの育成に努力していると話されました。参加者からは「短時間に分かりやすいお話で武士道精神についてよく理解できた」「お話しを聞いて、武士道の精神が今の日本に必要なだと強く感じた」といった声が聞かれました。



昨今の時代劇ブームも引き合いに出しながら分かりやすくお話しになる米田教育長

2 12月4日(土) 第2回 地域活性化と開拓精神・武士道精神～公募副市長としての思い～

講師：十和田市副市長 小久保純一氏

小久保副市長は民間企業や教育、行政の改革を実践してきた幅広い経験を踏まえて「開拓精神」「武士道精神」を十和田市民がどう活かせるか、統計や具体例を挙げて語られました。新渡戸傳について「開拓精神とはリスクを引き受け新たなことに立ち向かう能動的な心であり、高いマネジメント能力＝武士道精神を有したといえる。しかし、統計的にも今の若者たちは共感性、協調性はあるが能動性が低く、「自分がやらずにだれがやる！」といった意識も、人口減少に伴って育ちづらい現状がある。若者には開拓精神・武士道精神を育てるために自主性を伸ばす教育・しつけが必要である。十和田市は開拓精神と武士道精神のまちとしてそれに取り組むのに最もふさわしく、第一に実践して全国に発信すべきである」と話されました。参加者からは「地域に密着した武士道精神が必要なんだと気付かされた」「パワーあふれるお話しに、改めて他人任せはやめて住みよいまちをつくらうと思う」などの声が聞かれました。



ユーモアを交えてお話しする小久保副市長

★ワークショップ・しめ縄づくり 12月11日(土) 14:00~16:00

「武士道に学ぶ日本の心」関連ワークショップとして、日本の伝統行事お正月に欠かせない「しめ縄」づくりを行いました。自然栽培米農家へらい農園・戸来陽子氏にリース型の現代風のもの、長年農家として手仕事を伝えてきた小笠原正氏に定番のしめ縄のつくり方を教えていただき、縄をなう作業にはおよそ20名の参加者が夢中になり、伝統文化を楽しみながら身体で感じていました。思い思いのリースとしめ縄をつくった参加者の方に「また来年も参加します」と声をかけていただきました。



しめ縄の講師・小笠原正氏



それぞれ個性的なリースが完成

★新渡戸塾 オリジナルツアー ①

10月16日(土) 郷土遺産ツアー 歴史を見る会とKyosokyodoが企画

日本建築講座構造技術者協会 (JSCA) 歴史を見る会「第4回歴史的建築物の保存とリニューアルを見る」ツアー一行が元建築学会会長・内田祥哉東京大学名誉教授(同年12月日本学士院会員に選定)御夫妻とともに十和田市・三本木原開拓と稲生川、重文旧笠石家住宅、秋田県小坂町・重文康楽館、弘前市・重文長勝寺庫裏保存修復工事等を3日間の行程で見学されました。記念館では館長による武士道講演をあわせてお聞きいただくとともに、館長代理が市内を案内し、建築を専門とする参加者から、特に稲生川の技術的な素晴らしさに対して驚きの声が聞かれました。このオリジナルツアーは、学びに観光をプラスし、地域の魅力を地域の人々の手で伝え、つなげる企画として昨年から開催し、大好評につき2度目となりました。今回は、歴史を見る会の担当者とKyosokyodoメンバー新渡戸富恵さんが企画、コーディネートし、市内各施設の方におもてなしの心で協力いただきました。専門家と地域の関係者の交流の場を設け、地産の手作り弁当など、新しい地域交流を提供しています。



歴史を見る会一行(前右から2番目が内田名誉教授)と共に
[写真：同会 山田利行氏 提供]



人づくり・地域づくり事業 新渡戸塾 第三講座 歴史文化遺産に学ぶわたしたちのふるさと

受講無料

講演会「都市環境と人間形成—ふるさと十和田市が私に与えた影響—」

■講師：青森県立郷土館 学芸課長 昆 政明 氏 昆氏は十和田市ご出身で地理学、民俗学がご専門です
■日時：平成23年3月19日(土) 14:00~15:00 ■会場：十和田市立新渡戸記念館(定員およそ50名)

連携展「収蔵資料展2011」

■会期：平成23年3月15日(火)~4月30日(土)
■会場：十和田市立新渡戸記念館 一階展示室
2月中閉館して行う目録整理の成果を発表する展示です

絆ギャラリートーク「歳出し資料解説」

■講師：十和田市立新渡戸記念館 学芸員 角田美恵子
■日時：平成23年4月2日(土) 14:00~15:00
■会場：十和田市立新渡戸記念館(定員およそ50名)

新渡戸塾のお問い合わせ
十和田市立新渡戸記念館
TEL・FAX 0176-23-4430
Eメール nitobemm@hi-net.ne.jp

EVENT

★新渡戸塾 オリジナルツアー ②

11月6日(土) 稲生川穴堰ツアー 水土里ネット稲生川の協力で本年も開催

昨年から2回目となる「稲生川穴堰ツアー」を実施しました。総勢17名で太素塚を9:00に出発し、水土里ネット稲生川技師阿部俊氏の解説を受けながら、取水口までバスで移動、取水口法量農村公園で稲生川の構造や機能について詳しい解説を受けました。その後嗣長などの装備に着替え、天狗山穴堰1390メートル(改修後の全長)を水土里ネット稲生川スタッフの補助を受けながら歩きました。天狗山穴堰の水が、余水の捨て穴と見られる穴を経由して直接流れ込む新田堰など周辺の堰も見学し、記念館では展示絵図から昔の工事技術について理解を深めていただきました。参加者からは「実地で見なければ分からない事が分かってとてもよかった」との声をいただきました。



無事穴堰を歩きぬいた参加者たち

mini NEWS

太素塚清掃奉仕

- ・10月3日(日) 11月7日(日) さわかやクラブ様
- ・11月14日(日) 稲生ライオンズクラブ様

ありがとうございました

関連情報

▶ ジュード・カリヴァン博士来館

2010年10月5日(火)当館館長代理と親交のある神道研究者・中矢伸一氏のご案内で、世界的なヒーラーで、科学者、考古学者としても著名なジュード・カリヴァン博士が来館されました。カリヴァン博士は展示を興味深く見学され、色紙に「新渡戸稲造は、いかなる国から来た人であろうと、平和を探し求める全ての人にとっての啓示です。彼が人類に残した功績と遺産に、感謝を持って共に触れることができるこの場所を訪れ、光栄に思います。」と書かれていました。



カリヴァン博士(左から三番目)と

▶ 県出身歌手 板橋かずゆきさん、mammy Sinoさん来館

2010年10月14日(木)十和田市在住のシンガーソングライター桜田まことさんのご案内で、県内出身シンガーソングライター板橋かずゆきさん、mammy Sinoさんが来館されました。板橋さんとSinoさんは、翌々日の10月16日(土)開催「桜田まことホームコンサート@とわだ“アー・ユー・アオモリング?”あおもりにおいでよ!」(主催:桜田まこと十和田コンサート実行委員会/協力:アルタノヴァの会/場所:十和田市民文化センター)への友情出演のため来し、コンサートに先駆けて十和田市の歴史を知るために来館しました。一行には盲目の板橋さんと一緒に、手で触ることができる展示物を中心に楽しんでもらい、特に6kgもある穴堰工具・ばんづるの重さには3人とも驚きの声をあげていました。



左から板橋さん、Sinoさん、まことさん

▶ 市民図書館で「武士道」の図書を展示



当館の「武士道」展との連携企画として、十和田市民図書館では一般室で『新渡戸稲造と武士道』をテーマとした図書の展示を昨年12月に実施しました。図書館で所蔵する新渡戸稲造や武士道に関する一般書と学術書およそ20冊を展示し、図書館とあわせて当館の武士道展も見学してもらえよう、武士道展の資料などを設置し、連携を図りました。展示図書の中には現在出版されていないものも多く、市民の皆様へ改めて新渡戸稲造の武士道に理解を深めてもらうことができる企画となりました。

活動報告

▶ 博物館関係会議出席

2010年9月30日(木)~10月1日(金)山形県山形市で開催された平成22年度日本博物館協会東北支部ならびに東北地区博物館協会総会・研修会に館長代理出席。(会場:遊学館)

2010年11月24日(水)~25日(木)第58回全国博物館大会(開催地:奈良県奈良市/大会テーマ:歴史文化と博物館-1300年の時空を探索-)に館長代理出席。

▶ 三笠記念館「武士道展」で館長がテープカット

2010年10月24日(日)記念艦「三笠」(横須賀市・財団法人三笠保存会)特別展「日露戦争に見る武士道」[開催期間:平成22年10月24日(日)~23年3月21日(月)]へ当館から新渡戸稲造の直筆の書など7点を貸し出し、10月24日(日)同艦で行われたオープニングセレモニーでは当館館長が横須賀市・吉田雄人市長、中央乃木会・小堀桂一郎会長とともにテープカットを行いました。

▶ 館長講演会

2010年10月8日(金)第534回経営者モーニングセミナー(十和田市倫理法人会)において、館長が「武士道の四方山ばなし」と題して講演しました。

▶ 音楽学博士・音楽評論家として館長代理が活躍

館長代理が『音楽現代』11月号[2010年10月15日(金)発行]「特集2 来日演奏家・3人のM/“ショパンの演奏~ポリリーニのエチュードは傷一つない最高級のダイヤモンド”」ならびに同2月号[2011年1月15日(土)日発行]「特集2 ラン・ラン/“ラン・ランとユンディ・リ~中国ピアノ界が生んだビッグなエンターテイナーと正統派ピアニスト”」と題した評論を執筆しました。また、2010年11月3日(水)には、民音音楽博物館記念講演会(会場:仙台市エルパーク仙台)において「ショパンと私~私流ショパンピアノ音楽作品の聴きどころおよびピアニストをめぐる」と題して講演し、2010年11月9日(火)~11日(木)チェコ音楽コンクールピアノ部門(会場:チェコ共和国大使館ホール)、11月14日(日)日本ピアノ研究会主催第6回東関東(Aブロック)ジュニアピアノコンクール及びピアノオーディション本選会(会場:千葉県民文化会館)において審査員を務めました。

▶ まちなか博物館「伝えたい、ふるさとの風景~明治・大正・昭和 稲生町グラフィティ」パネル展が十和田市社会福祉協議会の協力で平成22年12月1日(水)から十和田市総合福祉センターロビーに巡回しています



編集後記

昨年のショパン生誕200年に次いで今年は我が敬慕するフランツ・リスト生誕200年。二人は共に生まれつき病弱だったが、長じて音楽家の宿命を負い、音楽の社会的地位向上に努め「芸術」の域に音楽そのものと音楽家を引き上げた。ショパンは生涯にわたり弱体でありながらピアノを中心とした200曲以上の作品を作曲し39歳で生涯を閉じた。一方リストは74年の生涯で1000曲以上に及び作曲、編曲作品を生んだ。両者の音楽性の相違は音そのものを大切にしたショパンに対して、リストは技巧を際立たせた。私はその両方の音楽性を持った人間になるよう心掛けたい。そして私も、原点である「開拓」を大切に、公の精神で精一杯生きたいと思うのである。(館長代理 新渡戸常憲)



左からショパンとリスト

ご利用案内

- ・開館時間:午前9:00~午後4:00
- ・休館日:毎週月曜日(祝祭日は開館)年末年始(12/29~1/3)
- ・観覧料:大学生・一般210円(団体178円)
- 小・中・高校生52円(団体42円)※団体は20名以上
- 十和田市民は観覧料が無料となっています



世界に通ずる私たちのローカル記念館を目指して
十和田市立 新渡戸記念館
 Nitobe Memorial Museum
 URL www.towada.or.jp/nitobe/

発行日 2011年2月1日
 編集・発行 太素顕彰会・十和田市新渡戸記念館
 〒034-0031 青森県十和田市東三番町24-1
 Tel & Fax : 0176-23-4430
 Email : nitobem@hi-net.ne.jp
 印刷 株式会社 岩間印刷